

「つながり」の力で かつてない規模と魅力を実現



「開会式では関係企業団体の代表者らが一堂に上野焼タンブラーで乾杯」

今回の「福智スイーツ大茶会」の原動力はなんとといっても「つながり」の力。「JAL」「JR九州」「福岡県洋菓子協会」「へいちく」「博多ミラベル21」「上野焼協同組合」などの企業や団体と福智町とのつながりが生まれ、県内最大規模のスイーツイベントが実現しました。代表者らが一堂に会した開

会式では、JALの柏頼之九州地区支配人が「企業・団体・行政・住民のみなさんが手を取り合い、「福智町に多くのお客様にお越しいただき、おもてなしをしたい」という熱い気持ちで実現したイベント」と、つながりの力を強調。今後の発展を祈念した上野焼タンブラーの乾杯で、大茶会の幕が開きました。



↑左から柏頼之 JAL九州地区支配人、三嶋隆夫 県洋菓子協会会長、武内功 平成筑豊鉄道専務、浦田町長、久楽博 JR九州筑豊篠栗鉄道事業部長、伊藤信勝 平成筑豊鉄道社長、田川市長、武知眞一 JAL山口・北九州支店長、青柳実行委員長（順不同）



↑当初予想していた1万人を超える人出で、常時賑わいが絶えなかった金田ドーム。人気店に長蛇の列ができました。

— 福智の魅力スイーツで磨く —



福智スイーツ大茶会

いまや町を代表するイベントにまで成長した「フクチ・ファインド・フェスティバル」。3回目の今年、3万人を超える盛況となった観光イベントの魅力と展望を探ります。

予想を超えた 約3万人の活況

前日の雨模様から転じて快晴に恵まれた10月6日、日曜の午前にもかかわらず開場1時間前から行列ができて始めていました。福智を広くPRし、福智の新たな魅力との出会いを目的とした観光イベント「フクチ・ファインド・フェスティバル」。3回目を数える今年、上野焼が持つ「茶陶」という最大の特徴にスポットをあてた「福智スイーツ大茶会」が盛大に開催されました。2日間の延べ来場者数は約3万人。予想をはるかに上回る人出で、金田ドームはかつてない活気に包まれました。



↑金田ドームから金田駅の構内まで延びた開場を待つ人の列。お目当てのブースに期待が膨らみました。

まずは福智を知っていただくこと

町外に出れば出るほど、町内では知っていても当たり前の「福智山」や「上野焼」という名前がまだまだ知られていないことを痛感します。観光の町という壮大な目標に少しでも近づくためには、まず多くの人に町を「知ってもらう」ことが第一目標。それは簡単で単純なことのように思われがちですが、これこそが今最も求められているゴールへの第一歩になります。福智を知り、興味を持っていただき、足を運んでい

ただ…。そのためには「ここにしかない」という魅力を磨き、さらに創り出し、受け身ではなく積極的にPRを展開することが重要になってきます。

昔から「観光地」と呼ばれる場所も、決して初めから「観光地」であったわけではありません。その場所独自の観光資源が磨かれ、ターニングポイント（転機）があり、そこから飛躍してきたはず。今回の「福智スイーツ大茶会」は、そんな転機に向けた観光イベントとして一定の成果を収め、町活性化へのきっかけとなる可能性を感じさせました。

Fukuchi Find Festival

福智の「食」と上野焼の「器」、童謡作曲家・河村光陽ゆかりの「音楽」、それらの魅力を融合した観光PRイベントとして誕生したのが「フクチ・ファインド・フェスティバル」です。初回は「方城すいとん」の発掘、前回は「ふくち☆リッチジェラート」の開発と、毎回福智ブランドの特産品を発表し、昨年は約1万5千人を集客。県の助成金を活用して、知名度と可能性の向上に取り組んでいます。

2011
方城すいとん

2012
ふくち☆リッチ
ジェラート

2013
ミラベル21 監修
ふくち☆リッチ
ジェラート

